

令和6年度 長野市地域包括支援センター運営協議会 報告書

日 時	令和7年2月10日（月） 午後1時30分～3時
会 場	長野市第一庁舎7階 第1・2委員会室
出 席 者	委員15人 事務局12人 地域包括支援センター代表3人（安茂里、星のさと、インターコート藤）
次 第	1 開 会 2 あいさつ 小山会長、臼井保健福祉部長 3 会議事項 （1）令和5年度（令和4年度実績）地域包括支援センター事業評価結果について 説明：事務局 宮崎補佐 （資料1） （2）「地域包括支援センターの事業評価を通じた機能強化について（通知）」の一部改正について 説明：事務局 宮崎補佐 （資料2） （3）長野市地域包括支援センター事業評価について 説明：事務局 宮崎補佐 （資料3） （4）令和7年度運営方針等について ア 令和7年度地域包括支援センター運営方針について イ 令和7年度地域包括支援センターの事業計画の様式について 説明：事務局 宮崎補佐 （資料4）（資料5） （5）委託地域包括支援センター活動報告について （資料6） ア 地域包括支援センター 安茂里 イ 地域包括支援センター 星のさと ウ 地域包括支援センター インターコート藤 4 そ の 他 5 閉 会
質 疑 応 答 要 旨	
委員	3 会議事項 （1）令和5年度（令和4年度実績）地域包括支援センター事業評価結果について （資料1） （2）「地域包括支援センターの事業評価を通じた機能強化について（通知）」の一部改正について （資料2） （3）長野市地域包括支援センター事業評価について （資料3） ①資料3の評価スケジュールについて、本来であれば前年度の評価を用いて次年度の計画を作成することになるが、今年度は国からの結果が現時点で届かないため2年前のものを用いるということによろしいか。 ②国は地域包括支援センターの職員配置について、準ずる者の配置を認めていると思われるが評価項目内に「3職種（それぞれの職種の準ずる者は含まない）」と記載さ

	れているのはなぜか。
事務局	①そうである。令和6年度の（令和5年度実績）事業評価結果については、国からの送付が2月中旬になることを確認した。次回の運営協議会で報告する。 ②国が示したものであるため、ご理解いただきたい。
委員	当該年度に実施した事業をその年度内に評価する市独自の事業評価の実施をしたい、とのことだが、資料3の2ページ市が実施する事業評価に、1月中旬までに市へ提出・報告、必要に応じてヒアリングを実施、2月の運営協議会で評価結果を報告する、と記載がある。そのような短期間で対応できるのか。
事務局	ヒアリングはその期間のみではなく、毎月開催している運営調整会議を利用し順次実施する予定である。
委員	事業評価の結果で、ある地域包括支援センターの数字が極端に悪い。対策はしているのか。
事務局	評価項目を誤って解釈している場合がある。次年度は評価項目を地域包括支援センターと確認し評価を実施していく予定である。
委員	資料3に事業評価の結果を公表する、と記載されているがどのように公表するのか。
事務局	運営協議会の会議報告が市ホームページに掲載されているため、そこに公表していく。
	（4）令和7年度運営方針等について ア 令和7年度地域包括支援センター運営方針について （資料4） イ 令和7年度地域包括支援センターの事業計画の様式について （資料5）
会長	事業計画書兼報告書の提出日はいつを予定しているか。
事務局	3月の運営調整会議で委託地域包括支援センターに事前に説明予定である。4月に依頼し、前年度の報告・今年度の計画を提出してもらう予定である。
	（5）委託地域包括支援センター活動報告について （資料6） ア 地域包括支援センター 安茂里 イ 地域包括支援センター 星のさと ウ 地域包括支援センター インターコート藤

委員	①地域包括支援センター安茂里の地域ケア会議について、件数が増加している要因はなにか。 ②当圏域に中山間地域があるが、サービス提供事業者が少なく調整が困難かと思われるがどのように感じているか。
包括安茂里	①地域ケア会議の件数については、個別ケア会議が重なったことが要因の一つである。 ②中山間地域のサービス提供事業者の数が少ない件については、先日、一つ新しい事業所が参入し、なんとか繋がっている、と言った状況である。担当圏域の中山間地域の一つは、地域のコミュニティができており支え合っている一方で、その支えが無くなると支援困難になるケースが多い印象である。
委員	ケア会議の参加者は福祉に携わる業種が集まり、福祉関連の職種は荷が重いと感じていたが、地域包括支援センター安茂里の地域ケア会議は福祉関連の職種だけでなく地域の多くを巻き込み開催していることに感銘を受けた。多様な職種を巻き込むことになったきっかけやアプローチ方法はどのようなものか。
包括安茂里	職員で話し合った際に、「認知症の人を支えるのは福祉職・医療職だけではない」という話題になった。日頃通っているスーパーマーケットやコンビニエンスストアの店員さんが支払いに戸惑う・足腰が弱っているといった変化に気づけるかもしれない。また、いつもガソリンスタンドに給油に来ている車が急に傷や凹みが増えた、という場合もある。それらの地区を支えてくれている人たちと何かあった時に連絡できる関係を築きたいと思い参集した。アプローチ方法は地道に電話や書面を用いて声をかけた。
委員	各地域包括支援センターの多くの素晴らしい活動について知ることができた。広報活動についてもさらに取り組んでいただきたい。
委員	病院に勤めているが、8050・9060問題は多く、対応が大変だと感じている。先日、地域包括支援センターコンフォートきたながいけの広報誌に栄養士会の活動が掲載され積極的に配布していた。広報活動について引き続き取り組んでほしい。
委員	地域包括支援センター星のさとの活動報告の地域ネットワーク会議について、どのようにひとり暮らし高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるか具体的に掘り下げられている。その中で今後、展開していくことができる事案はあったのか。例として災害時に認知症や引きこもりがちな高齢者をどのように救助に繋げるか、等あったのか。
包括星のさと	地域ネットワーク会議は、開催するだけで終わりにせず内容をまとめることを大切にしているが、どのように次に繋げるか悩んでいる部分もある。今の意見も含め今後どのように展開し、「あったらいいな」の声を基に次年度の地域ネットワーク会議に繋

	げていきたい。
委員	地域包括支援センターが地域住民や地域資源と関わる取り組みや努力が素晴らしかった。公的なものや地域資源の活用も大切だが、地域住民が主体となった地域づくりが必要と感じている。理学療法士会では地域で体操教室を開催しており、外出や住民の交流の機会を作り認知症予防を目指している。その人たちが地域課題を出し合って解決の糸口となるように住民主体で活動してもらえよう取り組んでいる。 先日、被災地について聞いた話がある。被災地では、一軒ずつの仮設住宅で生活している場合は、体育館のような広い場所で個々のスペースを作りコミュニティの中で生活する場合に比べ、認知症の人が増えてしまうようだ。地域でも同様にコミュニティが大切であるため、市で施策を検討していただきたい。理学療法士会としても力になれることがあれば協働したい。
	4 その他
委員	来年度の事業計画を立てるにあたり、今後は地域包括支援センターの負担軽減も重要であり、それに向けた方針はあるのか。
事務局	事業計画を立てるにあたり各地域包括支援センターが何を重点的に取り組む内容を明確することで負担になる部分が見えてくる。それを市が理解し何をサポートしていくべきか協議していきたい。 また、来年度に向けて総合相談の記録方法について電子申請の活用を予定している。
委員	委託料の増額はあるのか。
事務局	予算については現時点で議決されていないため回答は差し控える。
事務局	次回の会議は、令和7年7月7日を予定 以上で議事をすべて終了する。